

<p>30日 (日)</p> <p>Ⅱコリント 3章</p>	<p>「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出ししながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます」(18節)。わたしたちの顔の覆いは、主の方に向き直れば、取り去られると約束されている。主の栄光を映し出す鏡として、主に喜ばれる礼拝者となるよう祈りつつ。</p>
<p>31日 (月)</p> <p>Ⅱコリント 4章</p>	<p>「わたしたちは、このような宝を土の器に収めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために」(7節)。土塊にすぎないわたしたちに、「闇から光が輝き出よ」と呼びかけて下さる主に目を注ぎ、主の栄光の光を灯せる土の器とされたい。</p>
<p>1月1日 (火)</p> <p>Ⅱコリント 5章</p>	<p>「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」(17節)。キリストの十字架の死によって、主の和解のため奉仕する任務をいただいた私たち。主の年2019年を託された者として、ひたすら主に喜ばれる者となるのが、心からの願い。</p>
<p>2日 (水)</p> <p>Ⅱコリント 6章</p>	<p>「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」(2節)。主の道が、苦難、艱難にあふれているように見えても、「今」が主の恵みの時、「今」が主の救いの時であることを心に留め、神の生ける神殿として歩みたい。</p>

<p>3日 (木)</p> <p>Ⅱコリント 7章</p>	<p>「わたしは慰めに満たされており、どんな苦難のうちにあっても喜びに満ちあふれています」(4節)。パウロは慰めに満たされている、喜びに満ちあふれていると語る。パウロには、慰めを祈り続けている友(テトス)がいた。神の御心に適った悲しみの中にあるとき、慰めの友は、神が送ってくださる。</p>
<p>4日 (金)</p> <p>Ⅱコリント 8章</p>	<p>「あなたがたの愛の証しと、あなたがたのことでわたしたちが抱いている誇りの証しとを、諸教会の前で彼らに見せてください」(24節)。パウロが伝えてくれる神の恵みに応答する生き方は、自分の仲間、家族、教会の枠に留まるのではなく、社会、他の教会との交わりの中でも主の愛を示す生き方。</p>
<p>5日 (土)</p> <p>Ⅱコリント 9章</p>	<p>「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです」(6節)。主のためにこれを「せねばならない」ではなく、主のために、「これをしたい」という喜びの心から始まる業。神はいつでもどんなときにでも、良い業に満ちあふれさせてくださることに期待して。</p>
<p>6日 (日)</p> <p>Ⅱコリント 10章</p>	<p>「わたしたちは肉において歩んでいますが、肉に従って戦うではありません。わたしたちの戦いの武器は…神に由来する力であって要塞も破棄するに足ります」(3-4節)。目の前の困難を見ると、つい肉の力で戦おうと「もがく」わたしがいる。今日「神に由来する力」を祈り求め、体験する者とさせてください。</p>